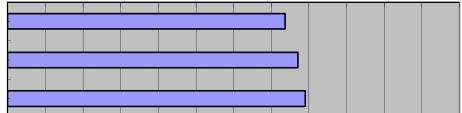


I 事業の概要

重点評価

I-1 事業の概要

事務事業名 ホーム・シアトルス	魚アラリサイクルセンター運営	所管局部課等	環境政策局適正処理施設部施設管理課
		(連絡先)	212-9820
		(評価票作成者)	施設管理課長 山本 孝

22決算額 (千円)	23予算額 (千円)	今後の方向性	24予算額 (千円)	目標達成度評価
168,607	178,258	現状のまゝ継続	198,085	指標： 原料（魚アラ）搬入量
業務運営方法	☐ 直営	委託(補助)先の名称、委託(補助)の内容 委託先：株式会社ジーエス環境科学研究所等 (京都市魚アラリサイクルセンターは、本市の一般廃棄物処理施設及び化製場として本市職員による直営で運営している。) 内容：設備保守管理、点検費、排ガス、排水、臭気調査費等である。		かなり悪い 悪い 普通 良い かなり 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100% 110% 120% H20年度 H21年度 H22年度 
	☒ 部分委託			
	☐ 部分補助等			
	☐ 全部委託			
実施根拠 (法令、条例、規則、要綱等)	☐ 全部補助等	廃棄物の処理及び清掃に関する法律、化製場法 京都市循環型社会推進基本計画（2009-2020）		事務事業の性格 ☒ 義務的事業 ☐ 任意的事業
				1 1 その他
開始時期	平成 8 年度	終了(予定)時期	平成 年度	会計区分 ☒ 一般会計 ☐ 特別会計

事業概要	対 象	(誰を、何を) 市場、鮮魚店、スーパー等から排出される魚の骨や内臓等（魚アラ）
	活 内 容	(どのような手段で) 京都市魚アラリサイクルセンターは平成20年4月から、本市の一般廃棄物処理施設として整備・稼働している。併せて化製場として、事業者から排出された魚アラをリサイクルし、魚粉を製造している。製造した魚粉は、入札等を経た後、売却している。また、平成23年1月から魚粉の生産過程で発生する魚油についても売却を行っている。なお、リサイクルルートを維持するため、収集運搬業者に対し、分別収集運搬奨励金の支給を行っている。
	目 的	(どのような状態にしたいのか) 魚アラは加工することにより飼料等の原料（魚粉）等となることから、有効活用し、可能な限り環境負荷が低減された、「循環型社会」の実現を目指す。

I-2 投入量

年間経費等推移 (千円)	No.	区分	H20年度決算	H21年度決算	H22年度決算	H23年度予算	H24年度予算
	①	事業費 (千円)	145,424	160,294	168,607	178,258	198,085
		補助金（経営改善補助）	14,562	2,040			
		報償費（奨励金）		18,942	32,202	33,536	33,518
		工事請負費	5,558				
		その他	84,156	114,949	111,082	119,016	136,710
	①'	委託料	41,148	24,363	25,323	25,706	27,857
	②	委託料が事業費に占める割合（①' ÷ ①） (%)	28. 3%	15. 2%	15. 0%	14. 4%	14. 1%
	③	人件費（24年度は見込） (千円)	68,405	75,664	89,247	89,247	93,848
		職員(課長級) (人)	1.00	1.00	1.15	1.15	1.12
		職員(課長補佐級、係長級) (人)	1.00	1.00	1.32	1.32	1.13
		職員(係員) (人)	5.00	6.00	7.64	7.64	8.48
		嘱託職員等人件費 (千円)	3,279	3,279			
	④	年間経費（①+③） (千円)	213,829	235,958	257,854	267,505	291,933
	⑤	特定財源（市税等の一般財源以外） (千円)	79,209	96,579	138,908	148,573	156,082
		国庫・府支出金 (千円)					
		受益者負担分(使用料, 手数料等) (千円)					
		その他(魚粉売却収入等) (千円)	79,209	96,579	138,908	148,573	156,082
	⑥	京都市年間負担経費（④-⑤） (千円)	134,620	139,378	118,946	118,932	135,851
	⑦	受益者負担率（受益者負担分÷④） (%)	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%	0. 0%

平成23年度
(平成22年度分)

事業名 魚アラリサイクルセンター運営

Ⅱ 評価結果

Ⅱ-1 市民と行政の役割分担評価

評価実施年度 23 年度

A 公共性	(公益性) ☒ より多くの市民に提供されるサービス ☐ 特定の個人又は集団に提供されるサービス	(必需性) ☒ 日常生活に必要不可欠なサービス ☐ 日常生活に必要不可欠でないサービス	『公共性評価』 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1158 315 1326 456"> ②必需・個人消費性 </td> <td data-bbox="1326 315 1487 456"> ①必需・共同消費性  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1158 456 1326 598"> ③選択・個人消費性 </td> <td data-bbox="1326 456 1487 598"> ④選択・共同消費性  </td> </tr> </table> 個人消費性(私益) 共同消費性(公益) 選択	②必需・個人消費性	①必需・共同消費性 	③選択・個人消費性	④選択・共同消費性 
②必需・個人消費性	①必需・共同消費性 						
③選択・個人消費性	④選択・共同消費性 						
B 行政関与の妥当性	関与の妥当性の程度(高・中・低) 高 (判断理由) 処理している魚アラは一般廃棄物であり、法令により、市町村に最終の処理責任が課されているため。						
C 受益者(サービスを受ける側)負担の妥当性	(負担を求める必要性) 無	(見直しの必要性) 無	(判断理由) 魚アラは、事業系一般廃棄物であるが、分別して収集することにより、有用物となる。処理手数料を無料とすることで、再資源化を促進し、魚粉の売却益で、運営費の一部を賄っていくことができるため。				
D 実施主体(サービスを行う側)の妥当性	(政策性) ☒ 政策的意思決定を必要とするサービス ☐ 経常業務の度合いが高いサービス	(行政専門性) ☐ 行政上の専門知識を必要とするサービス ☒ 行政上の専門知識を必要としないサービス	『実施主体の妥当性評価』 <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1158 952 1326 1093"> ②経常的・行政専門性 </td> <td data-bbox="1326 952 1487 1093"> ①政策的・行政専門性  </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1158 1093 1326 1234"> ③経常的・一般専門性 </td> <td data-bbox="1326 1093 1487 1234"> ④政策的・一般専門性  </td> </tr> </table> 経常業務 政策形成・意思決定 一般専門性	②経常的・行政専門性	①政策的・行政専門性 	③経常的・一般専門性	④政策的・一般専門性 
②経常的・行政専門性	①政策的・行政専門性 						
③経常的・一般専門性	④政策的・一般専門性 						
その他	事務事業実施上の課題、環境等外部要因の変化等 魚アラの処理は悪臭を始めとする公害問題の発生と常に背中合わせであり、公害防止策の徹底を最優先する必要がある。						
	当該事務事業を廃止・休止した場合の影響 市内で発生する魚アラの処理を他都市の民間化製場に委託処理するか、または市のクリーンセンターに前処理施設等を整備したうえで焼却する必要がある。しかし、一般廃棄物の処理責任の原則から他都市施設への委託処理は困難であり、水分を多量に含む魚アラをクリーンセンターの現設備で安定的に焼却することも難しい。さらに、焼却すれば、循環型都市を目指す本市のリサイクル施策が大きく後退することとなる。						
	どのような状態になれば事務事業の廃止を検討するのか 現在のように魚アラだけを分別収集するよりも、食品廃棄物(食品残渣)全体を一括して、リサイクルできるような技術が開発されるなど、新たなリサイクルシステムが構築されたとき。(魚アラの処理施設を公社化している自治体もある。)						
	他の自治体の動向 <取組・見直し状況等> 民間施設において処理している場合、補助金の交付等、何らかの公的関与を行っているケースもある。						

Ⅱ 評価結果

事業名 魚アラリサイクルセンター運営

Ⅱ-2 業績評価

A 目標達成度	指標名	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
指標1	原料（魚アラ）搬入量	目標値 …①	t	7,000	7,000	7,000	7,000	7,000
		実績値 …②	t	5,160	5,396	5,530		
		目標達成度（②÷①）	%	73.7%	77.1%	79.0%		
	指標の種類	増加することが良いとされる指標		評価	普通	普通	普通	
指標2		目標値 …①						
		実績値 …②						
		目標達成度（②÷①）	%					
	指標の種類			評価				
			総合評価					
指標の選択理由				目標値設定の考え方				
指標1	魚アラリサイクルセンターは、魚アラを加工し魚粉を製造する施設であるため、魚アラ搬入量を指標に設定する。				まだかなりの量の魚アラが他のごみと混ぜて焼却処理されていることから、分別協力率の向上等により搬入量の増大を目指していく。			
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名			適用年度			単位
指標2								
指標変更の有無	☐ 有 ☒ 無	指標名			適用年度			単位
分析	<実績値の変動理由等> 魚アラの排出業者に対して、チラシの配布による分別の啓発を行ったことにより、魚アラの分別が若干進んだため。							
B 効率性	No.	区分	単位	H20年度	H21年度	H22年度		
	①	原料（魚アラ）搬入量	t	5,160	5,396	5,530		
	②	年間経費（事業費及び人件費の合計額）	千円	213,829	235,958	257,854		
	③	単位当たり経費（②÷①×1,000円）	円/単位	41,440	43,728	46,628		
	④	単位当たり経費変動率			+5.5%	+6.6%		
					評価	悪くなった	悪くなった	
分析	<コスト変動の理由等> 平成21年度と比べ、平成22年度の経費が増加したため効率性が悪くなった。 事業費は分別収集運搬奨励金が増となったが、魚アラ搬入量の増に連動したものでありやむを得ない。搬入量の増は魚粉等の売却収入の増にもつながるものであり、効率性評価では反映されない利点がある。人件費は業務規模に応じ重点的に配分し							
C 市民参加度	企画段階	☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無	<現状分析、今後の方針等> 原料の魚アラは市場、スーパー等の事業系一般廃棄物である。本事業は、搬入された魚アラを魚粉に加工し、売却するものであり、本市及び運搬業者等が担い手となっているため、必然的に市民参加する機会はない。					
	実施段階	☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無						
	評価段階	☐ 高 ☐ 中 ☐ 低 ☒ 無						
D 市民満足度	<調査の有無>		<調査結果、現状分析等>					
	☐ 有 ☐ 無 ☒ 該当しない							
	<調査方法>	<調査時期>						
E 環境保全及び環境負荷軽減の要素	☒ 環境 ☐ 関連 ☐ 一般		<現状分析、今後の方針等> 飼料等の原料として再資源化することにより、焼却するごみの量を減らし、資源循環に寄与していく。					

平成23年度の実施状況 平成23年度についても、操業上の大きなトラブルはなく順調に稼働した。また、魚粉の生産過程で発生する魚油について、新たに年間を通じて売却を行うことができ、収入増加につながった。

市会・監査・外部機関等からの指摘 平成20年10月21日、くらし環境委員会において発生したトラブルの原因究明や、今後の安定稼働に向けた方策の有無など指摘を受けた。

Ⅲ 今後の方向性

（今後の方向性の理由及び具体的な内容）

現状のまま継続

稼働後4年を迎え、施設運営については、安定稼働を確保できるようになった。一方で、現在の直営体制からより効率的な運営の実現を目指し、外部委託について検討を行っていく。